

令和 5 年 6 月 11 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00696

研究課題名(和文)「日系市民」と日本語教育—戦前・戦中期の米国西海岸を中心に

研究課題名(英文) The "Nikkei Citizen" and Japanese Language Education: With a Focus on the Prewar and Wartime Periods on the West Coast of the United States

研究代表者

森本 豊富 (Morimoto, Toyotomi)

早稲田大学・人間科学学術院・教授

研究者番号：30230155

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、(1)戦前期日本語学校での国定教科書への回帰、(2)戦時期の強制収容所内での教科書・教材、日本語教育の状況、強制収容所間での相違について調査することが目的であった。2018年度から開始された本研究は、コロナ感染の拡大によって当初予定していた現地での調査が2年ほど実施することができず、2年間延長した。その結果、(1)についてはサンフランシスコにある北米の代表的な日本語学校である金門学園の議事録などの一次資料をもとに、複数の教科書・教材(同校で作成したもの)の存在が明らかになった。(2)については、ツールレイク隔離収容所の「国民学校」で使用されていた教科書を数点入手できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦前期の日本語学校で使用された教科書や日系コミュニティでの役割については、日本語教育史研究会において「戦前期カリフォルニア州の日本語学校が日系コミュニティに果たした役割—サンフランシスコ・金門学園を中心に」との題目で発表し成果報告した。北米の代表的な日本語学校である金門学園について1次史料を活用し、当該分野における研究の発展に貢献できた。戦中期における強制収容所内での日本語使用状況については、今後さらなる調査が必要であるが、ツールレイク隔離収容所内の「国民学校」で使用されていた教科書の一部や関連資料の入手、収容所内で国民学校教育を経験した人物への聞き取りができた点で学術的意義があった。

研究成果の概要(英文)：The purposes of this study involved investigations of (1) the use of Japanese language textbooks published and authorized in Japan among Japanese language schools in the prewar period and (2) textbooks and teaching materials used, Japanese language education, and differences among ten different concentration camps in the US during the war period. Due to the spread of COVID-19, I could not conduct the investigation in the US for two years and thus postponed the period of inquiry for two years. Thanks to the postponement of the investigation period, I was able to: (1) have access to the primary source at Kinmon Gakuen in San Francisco, one of the representative Japanese language schools in the US, thereby found that several textbooks and teaching materials, including those authored and edited at the school, were used at the school; and (2) acquired some copies of the textbooks used at "Kokumin Gakko" at the Tule Lake Segregation Camp.

研究分野：移民研究

キーワード：言語維持・言語継承 在米日本人・日系人 戦前期の日本語学校 戦中期の日本語・日本文化継承

研究成果報告内容

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00696

研究課題名：「日系市民」と日本語教育―戦前・戦中期の米国西海岸を中心に

研究代表者氏名：森本 豊富

所属研究機関：早稲田大学

研究成果の概要

本研究では、(1)戦前期日本語学校での国定教科書への回帰、(2)戦時期の強制収容所内での教科書・教材、日本語教育の状況、強制収容所間での相違について調査することが目的であった。2018年度から開始された本研究は、コロナ感染の拡大によって当初予定していた現地での調査が2年ほど実施することができず、2年間延長した。その結果、(1)についてはサンフランシスコにある北米の代表的な日本語学校である金門学園の議事録などの一次資料をもとに、複数の教科書・教材(同校で作成したもの)の存在が明らかになった。(2)については、ツールレイク隔離収容所の「国民学校」で使用されていた教科書を数点入手できた。収容所内での日本語教育の状況、強制収容所間での相違については、2021年度から開始している科研基盤研究(C)「戦中期における在米日本人・日系人に関する言語・文化の維持および継承」(課題番号21K00608)において探求していきたい。

研究分野 日本語教育史

キーワード 在米日本人移民、戦前期の在米日本語学校、戦中期の日本語・日本文化の維持・継承

1. 研究開始当初の背景

戦前の北米西海岸における日本語学校に関する研究には、カリフォルニアを中心とした日本人コミュニティの言語・文化維持に関する研究(Morimoto,1989)、シアトル・カリフォルニア・ハワイの日本語学校に対する排斥運動の比較研究(Asato,2006)などがある。また、強制収容所内での二世教育については、James (1987) *Exile Within: The Schooling of Japanese Americans, 1942-1945*.に詳しい。しかし、戦前期・戦中期に実際に日本語学校で何がどのように教えられていたのか、使用されていた教科書は何か、授業内容はどのようなものであったのかについては十分に解明されていない。

戦前期の日本語教科書については、最近になってハワイ版(2012)、シアトル版(2012)、カ

リフォルニア版(2014)の『日本語讀本』復刻版が出版された。これらの復刻版教科書には解題があり、シアトル版はマック(2012)、ハワイ版は高木(2011)、カリフォルニア版はマック、森本、坂口(2014)が手がかりとなる。

戦前の日本語学校における使用教科書や教授内容に関しては、報告者による「「帝国臣民」と「日系市民」の教育 米国版およびハワイ版『日本語讀本』の比較研究」(科研基盤(C)課題番号 15K02660)において、タコマ日本語学校図書室にあった教科書、教材、生徒のグループ活動記録などが、建物が解体される前にワシントン州歴史協会に寄付され、100箱以上のバンカーズボックスに保存されていたことを明らかにした。その多くは日本語教科書であり、箱からすべて取り出して分類した結果、その大半は国定国語教科書であった。具体的には、『尋常小学國語讀本』137冊、『尋常小學修身書』37冊、『綴り方のおけいこ』80冊などであった。1942年の強制収容の際に、大半の日本語教科書は焼却処分されたとみなされていただけに大きな発見であった。

2. 研究目的

上記のシアトル・タコマにおける研究成果を受けて、本研究では(1)戦前期日本語学校での国定教科書への回帰、(2)戦時期の強制収容所内での教科書・教材、日本語教育の状況、強制収容所間での相違について調査することを目的とした。(2)強制収容所内では、どのような経緯で日本語教育が許されるようになったのかに関して、(a)戦前期の日本学校における教育との連続性はあったのか、(b)具体的にどのような教科書、教材を使用して教授されていたのか、(c)10箇所あった収容所間でどのような違いがあったのかを比較検討することを目的とした。

3. 研究方法

上記(1)の研究目的に関しては、戦前期日本語学校で使用されていた教科書の記録を外交史料館所蔵の「日本語学校雑件」などの記録を手がかりに統計的に整理しながら、戦前、日本語学校で使用されていた教科書や教材の発掘を試みることにした。さらに、日本語学校における教育内容および教科書編纂の方針と編纂過程などについて、フーバー研究所の「邦字紙デジタルコレクション」を活用し日米新聞、新世界新聞、羅府新報などのカリフォルニア州の主要邦字紙を調べることにした。

(2)の研究目的のためには、WRA(War Relocation Authority)資料所収の戦時中に強制収容所内で発行されていた新聞(日英語紙面)をもとに調査することにした。また、スタンフォード大学フーバー研究所に所蔵されている Hubert Coslet Armstrong papers, 1918-1976, Paul Hanna Papers など強制収容所内の教育プログラムに関する資料を調査した。

4. 研究成果

本研究では、上述したように(1)戦前期日本語学校での国定教科書への回帰、(2)戦時期

の強制収容所内での教科書・教材、日本語教育の状況、強制収容所間での相違について調査することが目的であった。2018年度から開始された本研究は、コロナ感染の拡大によって当初予定していた現地での調査が2年ほど実施することができず、2年間延長することになったが、その成果として(1)についてはサンフランシスコにある北米の代表的な日本語学校である金門学園の議事録などの一次資料をもとに、複数の教科書・教材(同校で作成したもの)の存在が明らかになった。また、戦前にサンフランシスコで発行されていた日米新聞、新世界新聞の中から金門学園をキーワードに検索した結果、同学園がサンフランシスコ日系コミュニティにおいて果たしていた様々な役割(日本からの来賓の受入れ、運動会や夏期キャンプ、映画上映会など)が明らかになった。これらの成果については、日本語教育史研究会において「戦前期カリフォルニア州の日本語学校が日系コミュニティに果たした役割ーサンフランシスコ・金門学園を中心に」との題目で発表し成果報告した。北米の代表的な日本語学校である金門学園について1次資料を活用し、当該分野における研究の発展に貢献できたと考える。

(2)については、ツールレイク隔離収容所の「国民学校」で使用されていた教科書を数点入手できた。戦中期における強制収容所内での日本語使用状況については、今後さらなる調査が必要であるが、ツールレイク隔離収容所内の「国民学校」で使用されていた教科書の一部や関連資料の入手、収容所内で国民学校教育を経験した人物への聞き取りができた点で学術的意義があった。戦中期における在米日本人・日系人の言語・文化の維持・継承に関しては前述したとおり、2021年度から開始している科研基盤研究(C)「戦中期における在米日本人・日系人に関する言語・文化の維持および継承」(課題番号21K00608)において継承・発展させていく予定である。

5. 主な発表論文等

森本豊富・森茂岳雄共著(2018)「序章「移民」を研究すること、学ぶこと」日本移民学会編『日本人と海外移住 移民の歴史・現状・展望』(分担執筆)明石書店. 13-30 ページ.

Morimoto, Toyotomi (2020)"Education for Nikkei citizens in pre-war America: Japanese language schools and textbooks in California and Washington" In Anderson and Johnson eds. (2020) *Migration, Education and Translation: Cross-Disciplinary Perspectives on Human Mobility and Cultural Encounters in Education Settings*. 分担執筆. New York: Routledge. pp.174-185.

ジェームス・M・バーダマン, 森本豊富共著(2020)『地図で読むアメリカ』朝日新聞出版.

学会発表等

森本豊富 (2018) 「北米におけるオーラルヒストリーのデジタルアーカイピングーUCLA JARP Collection を中心に」JOHA シンポジウム オーラルヒストリーのアーカイブ化を目指して日本オーラルヒストリー学会. 上智大学.

森本豊富 (2018) 「国立国会図書館における日系移民資料調査 早稲田大学人間科学学術院「移住論」ゼミでの活用事例を中心に 」日本移民学会第 28 回年次大会.南山大学.

森本豊富 (2018) 「早稲田大学移民・エスニック文化研究所 10 年の歩み」移民・エスニック文化研究所研究会.早稲田大学.

Morimoto, Toyotomi (2019) “Language and Cultural Maintenance Efforts among Japanese Americans in Incarceration Camps during World War II” Comparative and International Education Society, 63rd Annual Conference in San Francisco.

Morimoto, Toyotomi (2021) “The Digital-archiving of the UCLA JARP Collection Oral History Tapes” AAS (Association for Asian Studies) 2020, Boston Session: The Material Life of the Archive: Promises and Challenges in Documenting the Japanese Diaspora. Online presentation.

森本豊富 (2023) 「戦前期カリフォルニア州の日本語学校が日系コミュニティに果たした役割ーサンフランシスコ・金門学園を中心に」日本語教育史研究会. オンライン開催.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Toyotomi Morimoto
2. 発表標題 "The Digital-archiving of the UCLA JARP Collection Oral History Tapes."
3. 学会等名 Association for Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toyotomi Morimoto
2. 発表標題 Language and cultural maintenance efforts among Japanese Americans in incarceration camps during World War II
3. 学会等名 Comparative and International Education Society 63rd Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 ジェームス・M・バーダマン/森本豊富	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 290
3. 書名 地図で読むアメリカ	

1. 著者名 Vivienne Anderson and Henry Johnson	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 229
3. 書名 Migration, Education and Translation: Cross-Disciplinary Perspectives on Human Mobility and Cultural Encounters in Education Settings	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
米国	JCCNC National Archives grant project	Stanford University, Hoover Institution	